

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課
 担当課長名：深澤 淳志

事業名	国道58号 恩納バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	沖縄総合事務局
起終点	自：沖縄県恩納村字瀬良垣 至：沖縄県恩納村字南恩納	延長	5.1km		
事業概要	国道58号は、沖縄本島西側を南北に走る大動脈で、本島中南部の人口集中地域と北部の観光・リゾート地域及び農山村地域を結ぶ主要幹線道路である。恩納バイパスは、美しい海岸線が続き、リゾートホテル、ビーチなどが集中している本県有数のリゾート地である、恩納村内の夏場の観光シーズンにおける交通渋滞の緩和、沖縄自動車道へのアクセス向上による沿道環境の改善、観光産業の支援に大きく寄与する道路である。				
H元年度事業化	都市計画決定不要	H7年度用地着手	H9年度工事着手		
全体事業費	330億円	事業進捗率	66%	供用済延長	0km
計画交通量	28,700台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.9 (残事業) 6.3	総費用 (残事業)/ (事業全体) 109/371億円 (事業費：88/350億円) (維持管理費：21/21億円)	総便益 (残事業)/ (事業全体) 694/694億円 (走行時間短縮便益：703/703億円) (走行経費減少便益：8.8/8.8億円) (交通事故減少便益：-18/-18億円)	基準年：平成20年度	
事業の効果等	・円滑なモビリティの確保（並行する現道区間の渋滞損失時間が削減する） ・都市の再生（広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する） ・個性ある地域の形成（主要な観光地へのアクセス向上が期待される）				
					他6目に該当
関係する地方公共団体等の意見	恩納バイパスの整備により、交通渋滞の緩和、交通安全の確保、地域交流の促進、幹線道路としての機能向上が期待されており、地元恩納村等から早期整備の要望を受けている。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	・レンタカー交通等の交通量の増加により、夏季観光シーズンを始めとして渋滞が発生⇒渋滞緩和 ・沿道は人口集中地域であるが、大型車の利用交通が多く、交通安全上の課題が深刻⇒交通安全の確保 ・年々観光客数が増加し、ホテルや各種観光資源の立地も促進され、県内屈指のリゾート地と ⇒観光支援				
事業の進捗状況、残事業の内容等	全体事業費での進捗率は65.8%、用地買収の進捗率は99.4%である。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	今後は、平成23年3月までには全線暫定2車線での供用を予定している。				
施設の構造や工法の変更等	歩道幅員の縮小、自転車道の削除および路肩の縮小により、道路幅員を縮小する等コスト縮減を図る。				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。